

Campo Maior

について



カンポ・マイオール

カンポ・マイオール (Campo Maior) はアレンテージョ (Alentejo) 地方の他の多くの町と同様、ポルトガル南部のスペインとの国境に非常に近い静かで平穏な町です。この町の起源は、3家族の農民が団結して、相互に守り合える集落を築くことを決意したことであると伝えられています。

町の名称の由来は古代ローマ時代にさかのぼりますが (当時はカンパス・マイオール (Campus Maior) と呼ばれていました)、青や黄土色の縁取り、窓枠、扉の枠などに後のイスラム教徒による支配の名残がはっきりと残っています。この町はもともと、バダホスの監督管区に属していましたが、はるか後の1297年にスペインとポルトガルの間でアルカニゼス平和条約が締結された時、最終的にポルトガル領となりました。その後もこの町は近隣のスペイン領の街、バダホスと極めて密接な関係を保ち続けました。

この町の住民は断固とした性格を持っていることで有名です。1年のうち、全員の希望が一致する特別な時期に、ポルトガル全土で最も興味深く、人気の高いフェスティバル、フラワーフェスティバルがここで開催されます。このフラワーフェスティバルはまた、フェスタ・ド・ポヴォ (Festa do Povo (国民のフェスティバル)) としても知られています。この時には、各通りの住民が一緒になって、楽しく色彩鮮やかにアレンジされた紙の花で付近を飾りつけます (通常、このフェスティバルは9月の第1週に開かれます)。膨大な量の彩り鮮やかな紙で装飾された町を見学するために数千人の人が訪れます。

カンポ・マイオールで最も興味深い歴史的遺産の1つは、1766年に建てられ、この種の礼拝堂としてはポルトガルに3つしかないうちの1つであるオソス礼拝堂 (Capela dos Ossos) です。